

オラフ・エステソンの夢の歌

DAS TRAUMLIED VOM OLAF ÄSTESON

語りとライアーコンサート — 東京集会支援のために —

2020 年 1 月 5 日（聖誕祭最終日）午後 2 時～3 時 45 分

出演 アンサンブル トラウムリート

ライアー 山下りか、高木芙二子、川杉啓子、芝山恭子、皇恭子

語り 中谷三恵子

昨年に引き続き年初の喜ばしい日に、アンサンブル・トラウムリートの皆様によるコンサートを東京集会支援行事として行なえる運びとなりました。キリスト者共同体ではオラフが十三日目に目覚める一月六日は正に大いなる祝日、キリストの顕現日を祝います。けれども今年は平日の月曜日にあたりますので、前日のクリスマス最後を飾る一月五日に催すこととなりました。どうぞふるってお申し込みいただけますよう、心よりお願い申し上げます。

入場料に代えて御一人二千円以上のご寄付をお願い申し上げます。

会場：キリスト者共同体東京集会久が原集会所(東急池上線久が原駅徒歩 3 分)

定員：三十名 定員になり次第、締め切らせていただきます。

申込：東京集会へメールかファックスにてお願いいたします。

Mail: tokyo@kirisutoshakyodotai.org Fax : 03-3757-4917

十四歳以下のお子様は入場できません。

「オラフ・エステソンの夢の歌」はオラフ・エステソンという若者がクリスマスの夜床に就き、そのまま 1 月 6 日の朝まで 13 日間眠り続け、その間に見た霊的な出来事を教会で語るという物語です。1912 年 1 月 1 日ドイツ・ハノヴァーで、ルドルフ・シュタイナーによってアントロポゾフィー協会員に紹介されました。元々はノルウェーに古くから伝わっていた物語で、それをシュタイナーの友人が発見し、シュタイナーに紹介しました。彼が訳したドイツ語訳にシュタイナー自身が手を入れ、マリー・シュタイナーによって朗読されました。その後シュタイナーはこの物語にオイリュトミーのフォルムを作り、ピアノ曲が作曲され、アドヴェントの頃に上演されるようになりました。またヨハンナ・ルスというライアー演奏者がこの物語をライアー用に作曲しました。今年もまた、12 月 25 日から 1 月 6 日までの 13 日間を特別に祝うキリスト者共同体東京集会支援のため、上演いたします。

中谷三恵子